＜コロナ対応：審判業務のやり方＞

2020･8･31　新潟県バドミントン協会　審判委員会

〇　基本、敗者審判です。主審・得点表示員でゲームを進めます。

線審・コーチは設けません。ラインのジャッジはセルフジャッジになります。

選手用のカゴ等は設置しないので、飲み物も各自持参のバッグに入れます。

※　審判台は使用しません。

主審・得点表示員はマスク着用で、適時水分補給をし、熱中症対策をお願いします。

選手との距離も２ｍ空けるようお願いします。

声をできるだけ出さないで、マッチを進行してください。

◎　手指消毒液は本部に用意してあります。

バインダー・鉛筆・ストップウォッチ・カゴは毎回消毒して渡します。

＜以下のやり方及び注意事項を守って、審判業務をお願いします。＞

１　主審・得点表示員（敗者）は一緒に本部に来て、手指の消毒をする。

　　手指消毒後に、顔や体を触らないように注意する。

２　主審は、スコアシート・バインダー・鉛筆・ストップウォッチ・シャトル（筒に入っている）・カゴを、受け取る。

３　選手に、スコアシートを見せて、選手名・所属の確認をする。握手もしません。

　　ポストの１．１５ｍの位置も確認する。

４　コールは、必要最小限とし、ジェスチャー等を工夫する。

「ラブオールプレイ」「フォルト」「レット」「ゲーム」等のみで行う。

ポイントはコールせず、得点表示を必ず確認する。

５　得点表示員は、できるだけ、得点表示器の触る範囲を少なくして、得点をめくる。

６　シャトルの交換時は、選手がシャトルを直接筒から取り出すこととし、使用済みシャ

　　トルは、選手が主審用のカゴに入れる。

７　モップ（２コートに１本程度用意あり）の使用は、主審または得点表示員が行う。

８　主審が勝者サインをして、勝者にスコアシートを見せて確認する。

９　マッチ終了後

1. モップを使用した場合は主審が、得点表示器は得点表示員が、それぞれ接触した範囲に、消毒液（２コートに１本程度用意あり）をスプレーし、ペーパータオル（消毒薬とセットであり）で拭く。使用済みペーパータオルは本部へ持参する。

②作業後、スコアシート・バインダー・鉛筆・ストップウォッチ・シャトル（筒に入

　　　っている）・カゴ（使用済みシャトルが入っている）を持って、敗者と一緒に本部来る。

10　主審・得点表示員とも、業務終了後は手洗い・うがい等を必ず実施する。

11　敗者は、上記の流れを繰り返す。

＜その他　注意事項＞

○　トーナメントの場合、初回戦の審判員・得点表示員は、本部で指名します。

○　シングルで、得点表示員を同じ所属チームで出せない場合は、得点表示員がいないと

　　いうこともあるかもしれません。

○　リーグ戦で、コートが固定されている場合は、リーグの中で、審判を交代で実施する

　　ことになりますが、マッチ毎に本部来て行う手順は、崩さないでください。

　＜補足＞

※　線審を置く場合は、対角２線審とし、無言で１０秒程度ジャッジを出し、主審とアイコンタクトをとってください。

※　消毒のやり方は、会場によって対応を工夫してください。